

川西町地域公共交通会議 会議録

令和4年2月22日 作成

■ 日 時 令和4年1月26日 10時00分～11時30分

■ 場 所 川西文化会館2階サークル室

■ 出席者 ※詳細は配布資料のとおり

川西町地域公共交通会議委員 18名

川西町地域公共交通会議事務局（川西町総合政策課） 3名

川西町長 小澤晃広 ※オブザーバー

川西町地域公共交通計画策定業務受託事業者（中央復建コンサルタンツ株式会社） 3名

■ 次 第 ※詳細は配布資料のとおり

1. 開会

2. あいさつ

3. 委員紹介

4. 議事

(1) 地域公共交通の利用実態と町民の移動ニーズに関する調査結果について

① コミュニティバスOD調査結果

② 町民アンケート結果

(2) 川西町の地域公共交通の現状のまとめ

■ 配布資料

・ 川西町地域公共交通会議次第（事前配布）

・ 川西町地域公共交通会議資料（事前配布）

資料 川西町の地域公共交通の現状等について

・ 川西町地域公共交通会議主席者名簿・席次表

■ 内 容 次ページ以降のとおり

川西町地域公共交通会議 協議内容

(令和4年1月26日 10時00分開会)

1. 開会

▶事務局長（喜多）

ただ今から「川西町地域公共交通会議」を開催します。会議の規定では、会議は委員の過半数の出席をもって成立することとなっております。本日19名中18名の委員に出席いただいておりますので、本会議は成立しておりますことを報告します。

2. あいさつ

▶事務局長（喜多）

前回に引き続き、町長の小澤晃広がオブザーバーとして同席しております。

▶小澤町長

皆さま、おはようございます。オブザーバーとして参加させていただきます、川西町長の小澤でございます。本日も時節柄お集りいただきにくい中、このようにお集りいただきまして、誠にありがとうございます。今回もコロナ感染が広がっている中でございますので、対策を打ちながらの会議となります。皆さま、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

前回の会議でも多種多様なお立場からさまざまなご意見をいただきまして、いろいろな気づきをいただきました。本日は調査やアンケートの結果を皆さまとともに確認させていただく機会となっております。その中でまた、さまざまなお立場からのご意見をいただきまして、今後、どのように地域交通をつくっていくのか、私どもとしましてもしっかりと考え抜いていきたいと思っております。本日もご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

▶事務局長（喜多）

本日はお手元に席次表と出席者名簿を備え付けております。会議資料に関しましては、事前に郵送しております。お手元がない方がおられましたら、お申し付けください。皆さん、

大丈夫でしょうか。

なお、本日は新型コロナウイルス感染症のまん延に配慮しつつの開催とさせていただきます。換気のために、寒いですが窓は開けさせていただいております。マイクは都度、消毒させていただきますので、ご了承ください。会議がスムーズに進行するようにご協力のほど、よろしくお願いいたします。それでは、会議に先立ち、川西町地域公共交通会議の会長であります、森田副町長からごあいさつを申し上げます。

▶**森田会長（副町長）**

本日はご多忙の中お集まりいただきありがとうございます。

また、平素は町政並びに川西町地域公共交通会議の円滑な運営にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。前回会議から「川西町地域公共交通計画」の策定につきまして協議していただいております。

前回は「計画策定の背景」と「公共交通に関する基本的な考え方」を共有した上で「公共交通に関する問題意識」をそれぞれのお立場からご発言いただきました。

今回は「川西町の地域公共交通の現状」につきまして、秋以降に行った調査結果を報告し、川西町の地域公共交通が現在どのような状況にあるのかを共有します。その上で、皆さまの意見をお聞きさせていただき「川西町の公共交通は、どうあるべきなのか」といったところを考えていきたいと思っております。それらを受けて、次回会議で計画を策定する上での「川西町の課題」や「それを解決していくための基本方針」などを計画の素案としてお示しさせていただきます。予定です。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

▶**事務局長（喜多）**

ありがとうございました。

3. 議事

(1) 地域公共交通の利用実態と町民の移動ニーズに関する調査結果について

▶**事務局長（喜多）**

つづきまして、次第の3番・議題について進めていきます。

議事の要旨につきましては、原則公開とさせていただきます。そのため、会議内容を録音させていただきますことをご了承のほど、よろしくお願いいたします。また、ご面倒ではございますが、発言の際は挙手の上、お名前をおっしゃってから、よろしくお願いいたします。

なお、前回の会議におきまして、地域公共交通計画策定に関する議事の座長を猪井先生にお願いすることとなりました。猪井先生、以降の議事進行をよろしく申し上げます。

▶猪井座長（富山大学）

それでは、議事の進行を以降、私の方で進めさせていただきます。

改めて、おはようございます。富山大学の猪井でございます。本日も議事がさまざまございますが、次第どおりに進めていきたいと思っております。先ほどのご挨拶のように、皆さまからご意見をさまざまいただけることが、この後の計画に生きてまいりますので、ぜひ忌憚のないご意見を賜ればと考えております。

それでは、次第に従いまして、3番の(1)「地域公共交通の利用実態と町民の移動ニーズに関する調査結果について」の議題を進めたいと思っております。事務局よりご説明をお願いいたします。配布資料の28ページからということで、それでは、よろしくお願いいたします。

▶事務局長（奥田）

私から先般実施しました「コミュニティバスのOD調査」と「町民アンケート」の結果について報告致します。

まずOD調査の結果につきまして、資料をご覧ください。OD調査は、利用者が乗った場所、降りた場所を確認して、人の動きを把握する調査のことです。出発地を表すオリジンの「O」と目的地を表すデスティネーションの「D」を取ってOD調査と呼ばれています。昨年11月8日・月曜日から12日・金曜日までの5日間実施し、調査員がバスに乗り込み目視でカウントし、あわせて「バスの利用状況」と「スーパーおくやま」について乗客へのヒアリングを実施しております。

そのOD調査の結果の概要につきまして、29ページをお願いします。スーパーおくやまへの乗降については、コミュニティバスに乗る人の39%、降りる人の28%を占めています。往復のことを考えると、60%から80%の人がスーパーおくやまへの買い物にコミュニティバスを利用しているといえます。このうち、線路より西側からの地域で保田線を利用する人が86%を占め、同じ保田線の東側や町の北側をまわる吐田線の利用者は非常に少なくなっています。停留所別に見ますと、保田公民館前の利用者が最も多く、次いで唐院住宅、唐院東口となっています。

つづいて、30ページをお願いします。近鉄結崎駅での乗降については、乗る人の5%、降りる人の21%を占めています。スーパーおくやまと同じく、町の線路より西側からの保田線の利用者が72%と大半を占めています。停留所別では役場前、保田公民館前が多い結果となりました。

31ページ上部にはその他の停留所の乗降について記載しています。役場を中心に乗降が見られますが非常に少ない状況です。ページの下には乗降の実数を表に示して、こちらからもスーパーおくやまと結崎駅での乗降が多いことが伺えます。

32 ページ以降は、OD 調査の際に実施したアンケートについて記載しています。お出かけ先として、スーパーおくやまと回答した人が最も多く全体の 67%を占めています。曜日別で見ると、月金が多く、前回委員から発言があった特売日の関係もあるかと考えられるし、過去の統計から見ても運休日の前後で増える傾向があります。調査機関の延べ利用人数は 136 人ですが、複数回利用している人が多く、実乗車人数は 67 人となり、往復での利用を勘案すると実際の利用者数は約 30 人程度と考えられます。

33 ページの利用者の属性からは、女性・高齢者・運転免許を持っていない人がコミュニティバスの主な利用者といえます。自由意見としては、コミュニティバスへの肯定的な意見や運行ダイヤや便数、ルートについての意見が寄せられています。34 ページには参考として、スーパーおくやまの利用に関するアンケート結果を記載しています。さらに、35 ページから 39 ページには前回会議にて説明しましたことを記載しております。参考と前回内容と重複するため今回は説明を割愛させていただきます。

つづいて「町民アンケート」の結果を報告します。ボリュームがありますので要点の中からピックアップして報告します。

40 ページをご覧ください。前回の会議でもお伝えのとおり、昨年 10 月 26 日にランダムに抽出した町民 2000 人にアンケート調査票を発送しました。ご家族などからの回答もしてもらえよう、各戸につき調査票を 2 枚配布しています。1,461 人からの回答があり、回答率は 48.7%となっています。一般的なアンケート調査の回収率は約 30%とのことですので、回答率は高い方であるといえます。

集計の結果として、まず 40 ページ下に回答者の個人属性として、性別・年齢・住居・世帯構成をまとめています。

41 ページには「運転免許の保有状況」をまとめています。運転免許証の非保有者の約 6 割が 75 歳以上の後期高齢者となっています。逆方向にクロス集計してみると、75 歳以上では約 48.4%が運転免許証を持っていないと回答しています。

次に「公共交通を使って 1 人で外出可能か」という問いに対しては、「あまりできない」「まったくできない」と回答した人は全体の 10%未満ですが、免許証を持っていない人や返納予定の人に限れば 26%と高くなっています。

42 ページをご覧ください。「ふだんの外出」について「通勤・通学」「買い物」「通院」でそれぞれ聞いています。「通勤・通学」は町外（奈良県内）が 5 割以上を占めています。44 ページをお願いします。「買い物」に係る外出のまとめです。最も多く行く買い物先としては「スーパーおくやま結崎店」が約 5 割と最も多く、次いで天理市内で約 2 割となっています。2 番目によく行く買い物先としては、天理市内が約 3 割、田原本町が約 2 割と町外が多くなっています。外出頻度は週 1・2 回が最も多く 4～5 割を占めています。46 ページをお願いします。「通院」に係る外出のまとめです。最も多く行く通院先としては、川西町内の診療所・医院が約 5 割と最も多く、次いで天理よろず病院が約 1 割強となっています。2 番目に多く行く通院先としては、天理よろず病院が約 3 割で最も多くなっています。頻度は

月に1日未満の人が6割を超えています。「通勤・通学」「買い物」「通院」いずれの目的とも交通手段は自家用車が5割を占め最も多くなっています。

次に48ページをお願いします。「自動車による送迎について」の設問です。日常的に家族等を送迎している人は全体で約4割と、買い物・通院での送迎が多い状況です。

49ページからは「コミュニティバスの利用状況」についての回答をまとめています。コミュニティバスを利用したことがあるのは約1割弱で、そのうちの約7割が月に1日未満の利用となっています。利用者の約75%が65歳以上で、75歳以上は約40%となっています。50ページの下グラフをご覧ください。コミュニティバスを利用しない理由としては63%の人が「他の交通手段があるから」と答え、これに次いで運行時間帯や本数を利用しない理由にあげる人が多くなっています。51ページをお願いします。「コミュニティバスの今後の利用意向」ですが、高齢者ほど、今後の利用意向は高く、サービスの向上によっては利用してもいいと考える人も3割程度います。

52ページをお願いします。「今後の公共交通について」の設問です。近鉄電車がなくなると日常生活に支障があると回答した人が約3割、コミュニティバスがなくなると支障があると回答した人は約7%となっています。今後必要だと思う地域公共交通サービスについては「既存のタクシーを割安で利用できるようになること」と回答した人が最も多く、回答者数は約3割。増便、土日運行、町外へのアクセスなどコミュニティバスのサービス向上についても2割程度となっています。また町の財政を増やしてまでやる必要はないと回答した人も全体の2割程度となっています。

53ページをご覧ください。ここでは「生活スタイルの変化」として新型コロナの影響とスマートフォンの利用について聞いています。まず、新型コロナの影響についてですが、外出頻度が減った人や約7割、公共交通の利用が減ったという人が約5割を占めています。公共交通の利用を控えているという人も2割程度いて、その代わりに増えた交通手段としては自動車が最も多くあげられています。54ページをお願いします。スマートフォンの普及が進んでいますが、75歳以上の高齢者の諸流率は4割弱にとどまっています。

これらを踏まえて、町民の移動ニーズとしましては、次の8点がいえるかと考えております。

1つ目は、外出時の交通手段の5割程度を自動車が占めており、自家用車による移動が定着していること。日常的に自家用車による送迎を行っている人も4割程度いること。

2つ目は、買い物・通院目的でよく行く行き先は町内が最も多いが、買い物は天理市や田原本町、通院は天理市への利用もこれに次いで多くなっていること。

3つ目は、コミバスを利用したことがあるのは1割弱で利用頻度も低い。利用者の大半を高齢者が占めており、後期高齢者も多いこと。

4つ目は、コミバスを利用しない理由としては、「他の交通手段があるから」が最も多いこと。

5つ目は、高齢者ほど今後のコミバス利用意向は高く、運行サービスの改善により利用

してもよいと考える人も 2 割程度いること。

6つ目は、今後必要だと思う地域公共交通のサービスについては、既存のタクシーの割安利用が約3割、コミバスのサービス改善（運行本数増、土日運行、町外駅へのアクセスについてはそれぞれ2割程度と、コミバス・タクシーに対する要望が多くなっていること。一方で、町の財政を増やしてまでやる必要はないとの意見も見られるということ。

7つ目は、新型コロナの影響により、5～7割の人の外出頻度・公共交通利用が減り、2割が公共交通の利用を控えている。その代わりとして自動車を利用する人が増えていること。

最後の8つ目は、スマートフォンの普及は進んでいるが、75歳以上高齢者の所有率は4割弱にとどまっていること。

以上で、議題1の地域公共交通の利用実態と町民の移動ニーズに関する調査結果についての報告とさせていただきます。

▶猪井座長（富山大学）

ありがとうございます。ただ今、OD調査と町民アンケートにつきまして、ご説明を賜りました。たいへん情報量が多くございますので、本来はご質問とご意見をお受けすべきかと思いますが、今までの全体をまとめるという意味もございますので、先に(2)「川西町の地域公共交通の現状のまとめ」のご説明をいただいた後に、皆さまからご意見を賜ろうと思えますので、事務局よりご説明をお願いいたします。

(2) 川西町の地域公共交通の現状のまとめ

▶事務局長（奥田）

議題の2「川西町の地域公共交通の現状のまとめ」について説明させていただきます。3ページから9ページまでにかけては、町の上位計画や関連計画から川西町の「まちづくりの方向性」を記載しています。地域公共交通計画との関係性につきましては2ページに記載がございます。これらにつきましても地域公共交通計画に記載されることとございます。総合計画、総合戦略、人口ビジョン、立地適正化計画、駅周辺地区まちづくり基本計画等の内容から「地域公共交通計画」に関連したところを9ページにまとめております。

10ページ以降は「川西町の概況」を記載しております。10ページは位置・地勢についてでございます。11ページから14ページまで人口について記載しています。

11ページをご覧ください。川西町の人口推移を掲載しています。グラフからは人口減少・高齢化が進展することが伺えます。

12ページをお願いします。高齢者人口についてのまとめを記載しています。今後、高齢者の総数は減少していきませんが、75歳以上の後期高齢者数は増加する見込みで、14ページ

のとおり要介護認定者も増加見込みとなっています。

前後しますが 13 ページをお願いします。地域別の人口としては、結崎地区に人口の約 7 割が集中し、地域間で人口集積に偏りがあります。15 ページをご覧ください。土地利用等について色分けをしています。土地の利用し方については、偏りと言いますか、計画的に、住む場所、工業をする場所、農業をする場所をゾーニングしています。工業の集積ということで 16 ページに工業に関する推移をまとめています。その下には町内の主要な施設の位置図を記載しています。

続いて 17 ページをご覧ください。交通・人の動きとして自動車の保有台数を記載しています。ページが飛んで申し訳ないですが、20 ページのパーソントリップ調査の結果を見ても、日常生活を送るうえで、移動における自動車への依存度が高まっていることが伺えます。

資料を 18 ページに戻していただきますと、運転免許保有状況についてまとめています。こちらにつきましては、前回会議終了後に天理警察署に資料をご提供にご協力いただきました。運転免許の自主返納件数は増加傾向にある一方、公共交通の主要な利用者であった女性高齢者の運転免許保有率も上昇 傾向にあることがわかります。

19 ページには通勤・通学の人動きをまとめています。先ほどのアンケートと同じような結果となっています。

21 ページをお願いします。こちらは公共交通のネットワークを図にしています。鉄道駅から 800m、バス停から 300m の範囲で住民の 92% が住んでいることとなっており、全国平均の 55% を大きく上回っていることがわかります。22 ページには鉄道利用の現況、23 ページから 24 ページにコミュニティバスの現況、25 ページにはタクシーについて記載しています。

中でもコミュニティバスの利用状況につきましては、先ほどからの報告と重複するところもありますが、23 ページのとおり、町内を概ね網羅するように運行していますが、24 ページの内容のとおり、現状では必ずしも利用者は多くなく、事業採算性も非常に低い 状況が続いています。先ほどの議題 1 の報告のとおり、買い物目的でスーパーおくやまを訪れる人のコミュニティバス利用が多くを占めており、利用区間・利用時間帯・利用者に大きな偏りが見られます。利用区間については結崎駅～保田公民館に集中。利用時間帯は午前中に集中。利用者については、数十名のヘビーユーザが利用されています。限られた利用者ではありますが、多くが運転免許を持たない高齢女性であり、日常生活を送るうえでコミュニティバスが必要不可欠で、増便、運行時間帯の拡大、土日祝の運行が望まれているという側面があります。

つづいて資料の 26 ページをお願いします。川西町には 2 つの工業団地があり、町内から約 1000 人、町外から約 3000 人の人が働きに来る町です。人口が減少しているものの、働きに来てくださる人は横ばいということで、昼間の昼間人口と夜間の夜間人口がほぼ同じということが特徴としてあげられます。企業が 20 社ほど立地し、近鉄結崎駅や JR 法隆寺

駅等から工業団地への従業員送迎バスが企業単位で運行されています。

27 ページには、周辺市町村の公共交通の運行状況を記載しております。

議題1・2で説明した内容につきましては、それぞれ資料の55ページ・56ページに記載しております。以上で、議題2の報告とさせていただきます。

▶猪井座長（富山大学）

ありがとうございます。私からも説明いただいた資料をもう一度、復習させていただきます。

皆さんもお感じのとおり、かなり高齢化が進んでいる、自動車を使う方がかなり多い、というのが一般的な動きです。私どもでは、アナウンス効果と言ったりするのですが、高齢の女性は60歳代でも8割の方が運転免許証を持っておられます。逆に言うと2割の方は運転免許証を持っていない状況です。高齢の男性でも70歳以上では74%が運転免許証を持っておられます。逆に言うと、25%くらいの方は免許を持っておられないのです。

それをフォローしているコミュニティバスがどうなっているか。南と北で利用の状況がかなり違います。南の方でも、利用が多いのは、保田公民館など町の西から「スーパーおくやま」までということでございます。この距離を「徒歩に変えてくれ」というのは難しいです。私自身も、結崎駅から役場まで「ちょっと距離がある」と思いながら歩いています。その倍くらいの距離を歩くとなると、買い物のための行き来としては、かなり苦しい状況だろうということです。自動車の移動が中心になってきているとは言え、何らかの手段で支えていかないといけない。「公共交通がなくてもいい」という状況ではないということでございます。

あともう1点は、55ページの「結果概要（まとめ）」にもございます。コミュニティバスの利用には、地域的な偏在があります。利用時間では、朝は使われていますが、午後は使われていない。使われていない時間帯は、コミュニティバスの運行の仕方を変えるだけではなく、場合によっては「既存のタクシーを割安で利用できるようになること」というご意見もございました。今のバス事業者に委託している枠組みでできるかというのはあるかとは思いますが、お迎えに行くような方法など、少しやり方を考えないといけない。午前・午後のコミュニティバスの利用をすべてタクシーに変えてしまうと、負担が増えてしまうことになり、なかなか難しいところです。午前中は残しつつ、午後の吐田線などは運行内容を見直しの検討をしないといけないということです。

最後に、2割程度の方が「町の財政を増やしてまでやる必要はない」というご意見もございました。増やしてまでやる必要はないということです。これについては、「だから、やる必要はない」と言っているわけではなくて、約2割の方がご意見を持っていることでもありますので、「公共交通がなぜ必要なのか」をもう一度お伝えしていかなければならないということです。地域の皆さんのお話を聞いてみると、「同じ川西町内で困っている人がいるとは思わなかった」とおっしゃる方もおられます。コンパクトな町ですので、自動車がなかつ

たとしても何らかの手段で移動ができていて、生活はしておられて、困っている人はいない。だから、コミュニティバスは要らないと思っていたというお考えであったかと思いますが、実態を知ればご理解いただけるというのがあります。アンケート結果を見て「公共交通をやめてしまえ」というご意見ではなくて、もうちょっときちんと伝えていかないといけないご意見だろうと、大まかにまとめるとそのようなことです。

全体を通して、皆さまからご意見があれば、最初にお受けしたいと思います。ないようでしたら、それぞれ地域からご出席されている自治会長、商工会長、老人クラブ会長、婦人会長、議会の議長等にお話を伺っていかうと思います。

まず全体を通して、確認として、ご質問・ご意見等がございましたら、お受けしたいと思います。ご質問があれば、マイクをお持ちいたします。

(質問なし)

ないようでしたら、お手数ですが、自治連合会長、商工会長と順々にお伺いしていきます。

▶吉村委員（自治連合会）

自治連合会の吉村です。私は前にも言っていますが、「財政が苦しい」と言われても、コミュニティバスを長く続けていくことは絶対に必要だと思っております。それを住民の皆さまに理解していただけるように、役場や当会議の委員と「コミュニティバスは必要だ」と説明していきたいと思っております。ぜひ続けていけるように、運営してもらえればと思っています。できるだけ、サービスを地域の方に理解いただくため、コミュニティバスに対して意見を出していただけたらと思います。

私はコミュニティバスを続けていく方向でやっていきたいと思っております。

▶猪井座長（富山大学）

ありがとうございます。つづきまして、商工会の吉村会長、お願いいたします。

▶吉村委員（商工会）

商工会の吉村です。この会議には何回も出席させていただいております。今回、資料に乗降者の意見、あるいは、川西町民の意見、いろいろと数字的に反映されているということは、この会議において、これからの重要なたたき台になると思っております。資料の中身に触れますが、川西町は、町役場も結崎駅、スーパーおくやま等が東の方にございます。地理的に見ても、保田からの乗降客が多いというのは、致し方ないことだと思います。

私もコミュニティバスに乗って、「このバスがあることで助かっている。これがないと、どこにも行くことができない」という高齢者の切実なお声を聞いたことがあります。今後、その方たちのみならず、川西町も高齢化社会になってまいりますので、コミュニティバス、

デマンドタクシー等、いろんな方式はあろうかとは思いますが、公共交通を続けるという方向性は維持していきたいと思っております。

アンケート結果で、2割程度の方が「町の財政を増やしてまでやる必要はない」というご意見もありました。おそらく、この方たちは交通弱者ではないのではないかと思いますし、この辺も含めて、これから、皆さま方と色々なご意見の中で考えていきたいと思っております。どうもありがとうございます。

▶猪井座長（富山大学）

ありがとうございます。つづきまして、老人クラブの丸谷会長、お願いいたします。例えば、ご自身が町内を移動されていて感じておられることとか、周りのクラブの方で、コミュニティバスを使っておられる方のご意見等があれば、賜ればと思っておりますが、いかがでしょうか。

▶丸谷委員（老人クラブ）

老人クラブの丸谷です。自分も80歳を超えましたので、そろそろとは思いますが、今のところ、自動車免許をいただいているため、不自由はしていません。しかし自動車に乗れない人は、コミュニティバスを利用することでしか買い物に出られません。いつか自分もそうなると思っております。自転車で走るのも難しそうなので、あったら便利な乗り物は続けてほしいです。

▶猪井座長（富山大学）

ありがとうございます。つづきまして、婦人会の福西会長、お願いいたします。

▶福西委員（婦人会）

福西です。この資料をいただいたときに、こういう思いの方もいらっしゃるのだなと思えました。私はコミュニティバスの利用は頻繁ではありませんが、助かっている方です。今は自転車に乗れるものの、ゆくゆくはコミュニティバスの利用日数は増えると思っております。

他の手段があるから、使わないという方は、二世帯、三世帯の方だと思います。ですが、配偶者と2人の世帯も今はかなりあります。配偶者が自動車に乗っていても、いずれは免許証を返納して、買い物とか不便になるときがくると思っております。今後さらにコミュニティバスは必要になると私は思います。

デマンドタクシーのこともおっしゃられました。事前に予約のある通院ならいいのですが、突発的に「頭が痛い」「薬が欲しい」と思ったときに、わざわざデマンドタクシーを予約できません。そういう時、近所の友達に送迎をお願いしたことがあります。その方は今、クルマに乗っていますが、その方もクルマを手放したら、コミュニティバスを利用せざるを得ないと思っております。

財政のこと等、いろいろと言われる方もおられると思います。そういう方は、商工会長が言われたように「交通手段に恵まれている方」だと思うのです。「なぜ利用者のいないバスが走っているのか、財政も豊かでないのに」と思われる方もおられますが、不便な方のことを思って、コミュニティバスは続けていただきたいと思います。切実な願いです。よろしくお願いします。

▶猪井座長（富山大学）

ありがとうございます。町民のいろいろなご意見を受けておられる議会としても、少しご意見を賜りたいと思いますので、議会の堀議長、お願いいたします。

▶堀委員（町議会）

今日は調査結果の報告がありました。結果として、調査結果の実態を踏まえて、いかに効率的に物事を進めていくか、調査結果による実態の方程式をどう解いていくかというのは、非常に難しいと思います。この方程式を解かない限り、片方では「コミュニティバスは便利だ」、いや、片方では、「コミュニティバスにあまり乗っていないのに、なぜ続けるのか」という2つの意見の違いを何らかのかたちで解いていかないといけないのではないかと思います。これが解けるかどうか、みんなで知恵を働かせて、片方では「便利だ」、片方では「非効率だ」という解を求めていくしか仕方がないのではないのでしょうか。これにお互いに知恵を出し合おうではないかと思います。

▶猪井座長（富山大学）

ありがとうございます。最後に堀議長からまとめていただきました。少しその言葉を使わせていただきますと、この方程式の中での解答、私どもで言うと目的変数で、目的を求める「最後にこういう解答が出てほしい」という側は「移動したい」というニーズです。それに対して何らかの対策をしないといけないことは、今までいただいたご意見では間違いないと思います。

一方で、後半でおっしゃられた、「それを効率的にするにはどうするのか」というのは、まだこれから考えていかないといけないわけです。商工会長がおっしゃられたように、苦しい中でもやっていっていることを地域の方にもお伝えしていかないといけないということかと思えます。今のところはコミュニティバスを残すことですので、「効率的」ということで、少し事業者の方にお聞きしたいと思えます。今の苦しい状況等もあると思えますので、奈良交通とタクシー事業者としてのお立場と、運輸支局あとは奈良県、警察からもご意見を順番でお伺いしたいと思えます。

まずは奈良交通からいかがでしょうか。コミュニティバスの話が出ております。誘導する気はないですが、効率的にということ、他の地域でも運転手が少ないというお話も出ていの中で、これ以上に運賃を安くするというのはまず無理な中で、どこをどう効率化したらい

いのか等、意見をいただければと思います。要は、受託料を安くしようという気はまったくなくて、それ以外に何かうまくできる方法があればということで、お願いいたします。

▶**湖中委員（奈良交通）**

奈良交通の湖中です。今回、初めて出席させていただきます。どうぞよろしくお願い致します。川西町のコミュニティバスは、現状1日2名で運行しております。正直な話、乗務員も高齢化していますので、乗務員の確保という点で言うと、奈良交通としても苦慮しているところです。ハンドルを握り、大事な命を預かるという部分で、安全運行に努めていかなければなりません。そんな中で乗務員は70歳を超えると定年という問題も出てきます。乗務員の確保に苦慮している中で、効率化を進めるにはどうすればいいのか、町役場とも協議をしながら検討していければと考えております。

▶**猪井座長（富山大学）**

ありがとうございます。可否をお伺いしたいのですが、今、少し出た、奈良交通がデマンドタクシーみたいなものを引き受けることは、可能なのでしょうか。

▶**湖中委員（奈良交通）**

可能かどうかは、内容にもよると思います。ほかの市町村では進めている所もございます。どうかたちで進めていけばいいのかというのは、まさにこれからの協議によると考えております。

▶**猪井座長（富山大学）**

ありがとうございます。では、タクシー業界として、効率化というのは、どうしていったらいいのか、ご意見がございましたら、お願いいたします。

▶**葛城委員（タクシー協会）**

タクシー協会の葛城です。よろしく申し上げます。前にも発言させてもらったかもしれませんが、川西町の中にタクシー事業者がないという事情があります。田原本町や三宅町の事業者がありますが、保有台数も少ないため、電話予約に対応できるかどうかということもあろうかと思えます。

コミュニティバスの運行状況で、利用者が偏っていたり、少なかったりということがあります。先ほど座長からお話がありましたが、デマンド型の乗合タクシーというのも可能かと思えます。広く募集をかけていただければ、参画したい事業者も出てくるかもしれません。または、朝等の利用者が多いときには、コミュニティバスで走って、午後の利用者が少ないときには、デマンド型で走る等の方策を、今後とも検討して、利用者の状況も見つつ、アンケートを取るなり、情報収集をしながら、いろんな方策を今後、検討されるかと思えます。

タクシーの利用券等で運行されている所もありますし、地域によっては、タクシー事業者がデマンド型乗合タクシーを運行している所もあります。地域の人口の兼ね合いとか、町の予算上の問題もあろうかと思えます。そういうことも考えながら、今後、皆さまとともに、川西町で自由に公共交通を使って移動できるような方策を考えていければと思います。

それと、資料を見ますと、コミュニティバスで支出と運賃収入の差が大きいということがあります。ただ運賃を上げればいいということでもないと思います。高齢者の方だけが乗っているという状況もありますが、やはり若い人にも乗っていただく方策も必要かと思えます。例えば、通勤はコミュニティバスや電車を使って行くなど。コロナ禍では難しいですが、仕事した後、お酒を飲んで帰ってくることもあるかと思えます。公共交通を利用していただくことを皆さまにやっていただいて、より利用されるようにということです。

もう1つ、私がこの交通会議でいつも思うことは「この会議に来るときくらいは、公共交通を使おう」ということです。普段、皆さまは自動車で動いていると思いますが、そういうことからやっていって、この地域のコミュニティバス等の公共交通を守っていくことを、町民の皆さまにお願いする前に、自分らが実践することも大事かと思えます。さらに、役場職員の皆さんも、確かに自動車は便利ですが、公共交通を使って通勤するというように、公共交通を守っていく立場の者が、積極的に活用していくことが大事かと個人的には思っています。以上でございます。

▶猪井座長（富山大学）

ありがとうございます。まさに公共交通でこのような会議に行くと、使われる方のご意見もいただいたりもしますので、そういうこともぜひお願いしたいということでもございました。あと、近畿運輸局、奈良県からそれぞれ、何かご意見がございましたら、お願いします。

▶東委員（近畿運輸局）

近畿運輸局 奈良運輸支局の東です。この調査結果で、32 ページの OD 調査のお出かけ先の回答が、圧倒的多数がスーパーマーケットとのこと。ここまで顕著な例もなかなか珍しいと思っています。ほぼ皆さまの目的が「買い物」。1 週間の OD 調査の結果ではありますが、概ねこういう傾向なのだろうと思います。

ただ、時刻表等を見て思っていたことですが、コミュニティバスに乗って買い物に来て、コミュニティバスに乗って帰っていく方がおられると思います。唐院の方であれば、9 時に出発して、9 時 23 分にスーパーおくやまに着いて、次に 10 時 35 分のバスに乗って帰るという感じです。そこで、この時刻表が適正なのかどうかというのが気になったところです。私も実際にこの会議に出た後、平端の職場に戻ります。昼ごはんを食べる所がないので、いつもスーパーおくやまでカップラーメンを買って帰ります。スーパーの中に待合スペースみたいな場所があればいいのにと感じています。コミュニティバスに対して「運行便数を頻繁に増やしてほしい」という意見もありました。それは待ち時間が長いといったこともある

かと思います。直接、交通には関係ありませんが、待合スペースといったことも改善していけば、その待ち時間を有効に潰せるような取組みとして、面白いのと思いました。

後で警察に聞きたいと思っていたのですが、18 ページに免許保有状況のグラフがあって、60 歳、70 歳の所でも、男性と女性にかなり大きな開きがあります。これは天理警察署管内での特徴なのか、それとも、全国的でも同じような特徴なのか、もしわかれば、教えていただければと思います。以上です。

▶猪井座長（富山大学）

「女性の方が、免許保有率が低いという傾向なのか」というご質問が出ました。突然、指名して申し訳ございません。奈良県警察の小畑様、お願いいたします。

▶小畑委員（天理警察）

これだけの差があるというのは、川西町の特徴だと思います。全国的に見れば、男性・女性の差は、人口比率に併せた程度の差くらいであって、倍近い比率になるのは、非常に珍しいと思っております。実際に川西町の男女別の人口比率がどうなっているのかも併せて見ないと、実際にどうなのかとは思っています。

▶猪井座長（富山大学）

大体、男女比率は一緒くらいで、70 歳代くらいになると女性のほうが多いと思います。想像すると、私の母が 70 歳ちょっとです。1950 年くらいに生まれています。母も免許を持っていません。それくらいの年代は、いわゆる高度経済成長期に 20 歳くらいを迎えています。その後、1970 年代、1980 年代にモータリゼーションが進んできた中で、多くの型が免許を取られるようになったので、60 歳代と言うと、もう女性がクルマを持って運転するのはあまり不思議ではない状況でした。そういうこともあって 60 歳代で女性の免許保有率が上がってきているのだと思います。

やはり 70 歳代以上になると、1970 年代に 20 歳くらい。前の万博くらいのときに自動車を運転していた女性は、そこまで一般的ではなかった時代を過ごされています。そのまま免許を取ることがなくずっと来たではと想像しているところです。

▶小畑委員（奈良県警察）

私の母親が 70 歳を超えたところです。あくまでもうちの家庭事情の話で、一般論ではありませんが、父親が母親に「免許を取るな」と言う世代だったようです。他のご家庭でこの事情が適用されているのかどうか、まったくわかりません。今の座長のご説明を受けて、考えてみますと、まさにそれが当てはまる家庭だったのかとは思っています。

▶猪井座長（富山大学）

60 歳代になるとまた変わってくるのでしょうか。60 歳代の方が免許を持たれてきて、大きく状況が変わっていくのだと思います。少なくとも地域公共交通計画という視点で申し上げると、計画は 5 年間ですので、大きく状況が変わることはなく、今、運転されていない方が置かれている状況を考えないといけないと思っております。

少し話を続けます。昔に比べて若い人が自動車をもたなくなっています。富山大学の学生は、比較的自動車を持っている方ですが、以前に教えていた大阪大学の学生を見ていると、昔に比べて自動車を持たなくなっています。そういう意味では、一時期はクルマをすべての年代で持つようになってきていましたが、18 ページの図を見ると、女性は 20 歳代でも免許保有率が 77.2%なので、逆に免許を持っていない人が結構おられるわけです。男性の 20 歳代でも 76.7%なので、残りの 23.3%は何らかの手段で移動されています。

先ほど「地域の若い人にも公共交通を使ってもらうことも大事だ」とタクシー協会からおっしゃっていただきました。実は若い人は、川西町は平坦な道なので、自転車に乗っておられるのかもしれませんが。そういう意味では、依然として必要な部分が大きくは変わらないのです。統計で言うと、2016 年と 2021 年の 5 年間で男女の差が出てきているのは、確かに面白いと思っております。

▶石神委員（奈良県）

奈良県県土マネジメント部リニア推進地域交通対策課の石神と申します。よろしくお願ひいたします。今回のアンケート調査を拝見している中で、コミュニティバスの利用者が約 1 割しかいない結果です。ダイヤを見ると、最初に結崎駅に入る時間が 8 時 25 分で、町内の方で通勤・通学をされている方は町外に出ている方が多いという中で、この時間に初発のバスが駅に入るといのは、通勤・通学には使いづらい時間帯かと思えます。

そういった中で平日しか運行していないということになると、利用者が 1 割にとどまっているのも、ある意味、仕方がない数字かと思えます。1 割の利用者をさらに増やしていくことを考えていくと、通勤・通学で毎日使われる方をいかに増やしていくかというのが非常に大事かと思えます。ただ、朝・夕のダイヤ改正で時間が延びれば、その分、運行の委託にかかる経費が増えてくるのはわかるので、この辺りの兼ね合いを見ながら、いかに毎日使っていただける方に使いやすいダイヤに持っていかかというのが、1 つ大事な事かと思っております。

県側でも今年度、公共交通基本計画の改訂作業を進めておりまして、昨日も猪井先生にご出席いただきながら、策定委員会を開催いたしました。その計画の中で 1 つ大きな柱として、地域がより主体的に公共交通を考えることをテーマとして掲げさせていただいています。こういったことから考えると、各委員がコミュニティバスを普段から使っておられる等、コミュニティバスを何とか保護していきたいという強い思いを持っておられる、この地域公共交通会議は、非常に議論をする意味では大切な場なのではないかと考えております。

議論の中で座長から、コミュニティバスだけではなくて、いろんな輸送モードを併せて検

討していったらどうかというご意見がありました。そこは県の計画でも、さまざまな交通モードを全体として捉えて考えるということで検討を進めているところです。なかなか責任問題がどこにかかってくるのか、非常に難しいのですが、県内のいくつかの市町村では、住民同士による助け合いの輸送が検討されて、実際に始められている所もございます。

そういったところをぜひ皆さんと一緒に研究・勉強しながら、川西町でどのように活かしていけるか、今後、検討していけば、よりよい公共交通がデザインできるのではないかと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

▶猪井座長（富山大学）

ありがとうございます。まだご意見をいただいている方もおられますが、何かほかにご意見はございますか。

▶堀委員（町議会）

私自身は約40年間、大阪の淀屋橋を中心に通勤しておりました。その間、東京に4年間、おりましたが、私自身は運転免許を持っておりません。したがって、結崎駅から大和西大寺駅経由で難波駅に出て、難波から地下鉄に乗って通っていました。かつて奈良交通に結崎駅から法隆寺駅までのバスがあったのです。すると、関西線が非常に便利になったので、ひょっとしたら、そのほうが便利かと考えたことがあります。

通勤という意味で言うと、朝は大体、決めた時間のバスに乗ればいいのですが、帰りは時間帯がバラバラです。満足させようと思うと、まさに電車並みのダイヤを組まないと、結果的に行きはバスで、帰りは電車に乗ることはできません。私の経験から言うと、帰りの分まで確保しようとするれば、実感として電車並みのダイヤが要ると思います。非常に効率性から言うと、先ほどの方程式ではないですが、難しい問題があるという感じがいたしております。

先ほど座長が言われましたように、私らの世代は自動車免許を持っていない人も多かったし、女性もほとんど持っていなかったです。だから、先ほどの免許保有率に影響しているのだらうと思います。少し参考までに発言しました。よろしく願いいたします。

▶猪井座長（富山大学）

ありがとうございます。行きだけではなくて帰りもきちんと考えないといけないのですが、学術のレベルでも、どうしても行きだけを考えてしまうケースが多いです。ご発言の要点としては、通勤にも対応したくとも、帰りまで考えるとかなり難しいということで、町として支援できることは何だろうか、通勤自体は難しいのではないかとご示唆いただいたと思っております。たいへん明快なご提起をありがとうございます。ほかにも何かご質問・ご意見はありますでしょうか。

▶**牧田委員（中和土木）**

中和土木事務所の牧田と申します。土木事務所の見解というよりは、一県民としての意見をさせていただけたらと思います。少し大胆な意見かもしれませんが、2点ほど発言します。

1点目としては、アンケート調査の結果等の状況はよく理解させていただきました。これを踏まえて、もちろんコミュニティバスを継続するためには、利用促進をどのように図っていくかという検討も加える必要があるかと思えます。というのも、川西町のコミュニティバスにおける、いちばんの利用目的は買い物です。例えば、スーパーおくやまと連携して、このコミュニティバスを利用することで、利用者の特典があるようにするのはどうでしょうか。コミュニティバスを利用して買い物をした場合、通常の買い物の2倍のポイントが加算されるといったスーパー側にもメリットがあるような作戦です。もちろんスーパーやほかの店舗の協力も必要かと思えますが、協議の余地がある気がします。こういった利用促進策を考えていくのも1つ手立てとしてあると思えます。

2点目は、礪波郡3町で大和平野中央プロジェクトということで「ウェルネスタウン」を命題にして検討されていることがあります。この枠域である礪波郡3町のコミュニティバスの領域を広げるのも考えてはどうかと思えます。買い物客の利用だけではなくて、ウェルネスタウンを目指すのであれば、例えば、田原本の唐古・鍵遺跡の公園のほうに、足を延ばして健康のための散策あるいは散歩をしてもらうために、コミュニティバスを利用してもらうような使い方も可能性があるのではないかと思います。そういった視点で、礪波郡3町で協力・連携してコミュニティバスを運行してみても面白いのではないかと思います。そのためには、多大な調整が要るかとは思いますが、1つの提案でございます。以上です。

▶**猪井座長（富山大学）**

ありがとうございます。利用促進のために、周辺町との協力も考えていく必要があるというご指摘をいただきました。何かご質問・ご意見はありますでしょうか。

▶**井上委員（バス協会）**

バス協会の井上です。先ほどコミュニティバスの効率化の発言を聞いていて思ったのは、せっかくOD調査をされたので、その利用実態になるべく沿うような運行系統（路線）と本数と時刻をまず見直していくべきかと私は思います。猪井先生からいきなりデマンド交通の話が出たのですが、私はちょっと違和感を覚えます。

▶**猪井座長（富山大学）**

ありがとうございます。まずはコミュニティバスのダイヤの修正等をやるべきではないかというご意見を頂きました。何かご質問・ご意見はございませんか。

▶**森田会長（副町長）**

様々なご意見をいただきありがとうございます。アンケートや OD 調査の結果を踏まえて、地域公共交通をどのようにしていくのか、漠然とした抽象的な計画では当然、住民にも納得されないと思います。では、この会議の場で川西町の公共交通をどうしていくのか、今、バス協会の方もおっしゃいましたように、デマンド交通ではなくて、時刻表も含めて、バスをもっと充実させていくのも 1 つの方策だと思います。

どうしても使われない時間帯があるのを埋めていく方法はあるのか、事務局からお話があるかと思いますが、抽象的な計画で終わらせず、具体的にどのように川西町としてやっていくのか、この会議を通しまして、検討していきたいと思っています。

引き続き、委員の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

▶猪井座長（富山大学）

ありがとうございます。会長にまとめていただきました。これから具体的な話は、来年にかけての話になりますが、ひとまず今年はおまとめして、基本的な方針をつくるころまでだったと思います。事務局に確認しますが、計画は 2 カ年で立てるのでしたか、それとも、今年度中に立てるのでしたか。

▶森田会長（副町長）

今年度中に立てる予定で進めております。

▶猪井座長（富山大学）

今年中に大まかな計画を立てないといけないということです今年度中に計画を立て、来年度が既に計画期間として入っていくということです。次回までに事務局と私で頭をひねって、具体的なことをご提示させていただくイメージでしょうか。

▶森田会長（副町長）

そうです。57 ページに書いてありますように、次回の会議では、「川西町の地域公共交通の課題の整理」「地域公共交通の基本方針と目標」「基本方針に基づく実施施策（移動手段確保の具体案を含む）」「計画の進捗管理」といった内容のお話をさせていただきたいと思っています。

本日のご意見も踏まえて、課題の整理、基本方針と目標、実施施策といった内容を事務局からお示しさせていただきまして、また皆さんのご意見を賜りたいと考えております。

▶猪井座長（富山大学）

次回に向けて、今まで皆さまから頂いたご意見を最後に復習させていただきますと、公共交通が必要だということは、皆さま、変わりがないところでございます。やり方としては、次回に具体案を考えていくこととなります。

私から申し上げた乗合タクシーは少し早いのではないかというご意見、バスのダイヤ修正をしてくべきというのもありますし、若い方の利用を誘導する利用促進、乗降地点であるスーパーおくやまに待合スペースをつくって待てる環境をつくる等でバスの本数が少ない所を何とかできるかもしれないので、きちんと対応していくべきではないかというご意見もいただきました。

磯城郡 3 町の共同という話も、今のバスは買い物を支援していて、通院となるとなかなか町内だけでは済む話ではない。例えば国保中央病院に行くのをコミュニティバスでやろうとすると、3 町を巻き込むことになります。次回までにどうするのかというのは、まとまらないとは思いますが。

少なくとも、町として買い物の支援はできていると私は思っています。町議長からご指摘があったように、通勤まで支援するのは、なかなか厳しそうですが、通勤は支援しないという意味ではございません。結崎駅の整備もされていますが、自転車が乗れる環境を整備する等、別の対応が必要なので、通勤というのは、優先順位を下げさせていただくということです。

ほかの目的として、通院を支援してタクシーを使ってもらうことまでやるのか等、少しやり方を考えさせていただいて、次回、皆さまにご提示させていただくかたちかと思っております。

様々なことを申し上げましたが、公共交通は必要ではあるが、ただ、今のやり方は少し考え直していかないといけないということで、コミュニティバスの運行の仕方を次回、皆さまと議論させていただきたいと思っております。

この点について、皆さまから異論があれば、ご意見を賜りたいと思います。もし異論がないようでしたら、そういう作業を事務局とさせていただきますして、次回、提案をさせていただこうと思います。

▶堀委員（町議会）

1 点よろしいでしょうか。通院という点では、町内の診療所以外でどこを使っているかと言うと、天理よろづ相談所病院が一番多いです。よろづ病院に行くのに、コミュニティバスで結崎駅まで行ったとして、結崎駅から天理市のコミュニティバスが走っているわけです。走ってはいますが、それが極めて不便。結局、結崎駅まで行っても、よろづ病院に行くには、平端駅で乗り換えて、天理駅に行って、天理駅からバスに乗るという不便なことになっています。もしこれが、結崎駅で乗り継いで、直接よろづ病院に行けるようになったら、利用する人がもっと増えるのではないかと、私は思います。

▶猪井座長（富山大学）

ありがとうございます。それは先ほどの磯城郡 3 町だけではなく、天理市も含めて、きちんと周りと共同して考えていかないといけないことかと思えます。

今の大きかなまとめでたいへん申し訳ございませんが、方針が決まった方が、事務局は作業しやすいと思います。皆様のご異論がなければ、そのようなかたちで次回の会議を迎えたいと思いますが、いかがでしょうか。

「異議なし」の声あり。

▶猪井座長（富山大学）

ご異論がないようですので、先ほどまとめさせていただきましたように、公共交通は何らかの手段を設けないといけないこと、コミュニティバスは要るということも間違いのないことです。

ただ、そのやり方はもう少し見直していこうという方向は、決まったかと思います。では、私の進行はこれで終わります、事務局に進行をお返しいたします。

4. その他

▶事務局（喜多）

猪井先生、どうもありがとうございました。皆さまからもご意見をいろいろいただき、ありがとうございます。本日の議事は以上となります。町長、もし何か一言、ございましたら、お願いいたします。

▶小澤町長

皆さま、多彩なご意見を頂きまして、誠にありがとうございました。川西町、行政の役割というのは、暮らしの質を向上させていくことですが、それを忘れず、しっかりと軸と違って、地域公共交通についても考えていきたいと改めて思いました。コミュニティバスの話にしましても、必要としていただいている方がいらっしゃることは、アンケートの声でもいただいております、そのお声にしっかりと向き合うことを忘れず、やっていきたいと思っております。

また、今回、アンケートをまとめていただきまして、川西町のコミュニティバス等の利用について、特徴が非常にあると、わかりやすくまとめていただいております。スーパーおくやまに利用が非常に集まっていたり、午前中の利用が非常に多く、午後は少なかったりという特徴も、今後、工夫していくにあたってのヒントになると思っております。こういった発見を活かして、工夫を積み重ねていきたいと思っております。

また、方程式を解くようなものだというお話をいただきましたが、今、集まってきている実態やご意見を踏まえまして、専門家の皆さまのご意見、また、全国で取り組まれている地

域公共交通でございますので、その失敗事例・成功事例、さまざまあるかと思えます。それをしっかりと勉強させていただいた上で、数学のように明確な答えはないと、前回、猪井先生もおっしゃっていましたが、明確な答えは出なくても、正解の確率が高い方向性を見出した上で、しっかりと工夫をして、チャレンジ・実験をしてみることから、正解に近づいていくのではないかと私としては思っております。どの方向で工夫して、チャレンジしていくのか、その方向性を見出したいと思っております。

引き続き、皆さまのご理解・ご協力をいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

▶事務局（喜多）

ありがとうございました。それでは、本日の会議は終了とさせていただきます。次回の会議は、ご案内させていただいているとおり、2月22日を予定しておりますので、よろしくお願い致します。

委員の皆さまにおかれましては、引き続き、何卒よろしくお願い致します。本日もありがとうございました

（令和4年1月26日 11時30分閉会）